

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 キ ュ ウ リ	うどんこ病	並	11月上旬発生量：並 気象予報： 日照時間並か多(-)	・ 窒素肥料の多追肥を避ける。
	褐斑病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報： 日照時間並か多(-)	・ 換気や通風等に注意し、施設内が過湿にならないよう管理する。 ・ 発病ごく初期から薬剤防除する。
	べと病	やや少	11月上旬発生量：やや少(-) 気象予報： 日照時間並か多(-)	・ 多湿条件で発生しやすい。そのため、換気や通風等に注意し、施設内が過湿にならないよう管理する。 ・ 下方の病葉は摘み取り、施設外へ持ち出し適切に処分する。 ・ 発病ごく初期から薬剤防除する。
	オンシツコナジラミ	やや多	11月上旬発生量：やや多(+) 気象予報： 日照時間並か多(+)	・ 施設内外の雑草を除去する。 ・ 薬剤散布は、葉裏までていねいに行う。
	タバココナジラミ	多	11月上旬発生量：多(+) 気象予報： 日照時間並か多(+)	・ タバココナジラミについては、退緑黄化病を媒介する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 キ ャ ベ ツ	菌核病	やや多	今春発生量：やや多（＋） 11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並か高（＋） 降水量少か並（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・ <u>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」も参照。</u>
	黒腐病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並か高（＋） 降水量少か並（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病原菌は葉先の水孔や傷口から侵入しやすいので、風雨後は注意する。
秋 冬 ネ ギ	さび病	やや多	11月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量少か並（－）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期から薬剤防除する。 ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
	べと病	並	11月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並か高（＋） 降水量少か並（－）	
	ネギアザミウマ	やや多	11月上旬発生量 被害度：やや多（＋） 寄生株率：少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量少か並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が確認された場合は、収穫前使用日数に注意して薬剤防除する。 ・ 葉の隙間等に潜んでいることもあるので、薬剤散布はていねいに行う。
	ネギハモグリバエ	多	11月上旬発生量：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量少か並（＋）	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬レタス	菌核病	並	11月上旬発生量 : 並 [発生なし] 気象予報: 気温並か高 (+) 降水量少か並 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適切に処分する。 ・ トンネル被覆前に予防散布を徹底する。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量 : 並 [発生なし] 気象予報: 気温並か高 (+) 降水量少か並 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ トンネル被覆後は過湿にならないよう換気に努める。 ・ 菌核病については、<u>令和2年度病害虫発生予報第8号P5「これから注意を要する病害虫」</u>も参照。 ・ 灰色かび病については、<u>P5「これから注意を要する病害虫」</u>も参照。
イチゴ	うどんこ病	やや少	11月上旬発生量: やや少 (-) 気象予報: 日照時間並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生初期から薬剤防除する。
	灰色かび病	並	11月上旬発生量 : 並 [発生なし] 気象予報: 日照時間並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内の換気を良くし湿度を下げる。 ・ 発病葉、発病果は速やかに摘除し、適切に処分する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 ・ <u>P5「これから注意を要する病害虫」</u>も参照する。
	アブラムシ類	やや少	11月上旬発生量: 少 (-) 気象予報: 日照時間並か多 (+)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	並	11月上旬発生量: やや少 (-) 気象予報: 日照時間並か多 (+)	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	黒点病	やや多	10月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+） 降水量少か並（-）	・ 枯れ枝は伝染源となるので除去し、園外で処分する。
	ミカンハダニ	やや少	10月下旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量少か並（+）	・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
カーネーション	アザミウマ類	やや少	10月下旬発生量：やや少（-） 10月黄色粘着トラップ誘殺数： やや少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量少か並（+）	・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	少	10月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量少か並（+）	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤散布する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
野菜・花き共通	コナガ	やや多	10月下旬発生量 施設ストック：並 露地ストック：並 11月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 10月フェロモントラップ誘殺数： ：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量少か並（+）	・ 早期発見に努め、発生初期に薬剤散布する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

灰色かび病（野菜・花き）

本病の病原菌である *Botrytis cinerea* は、トマト（写真1）・レタス（写真2）・キュウリ・イチゴ・シクラメン・カーネーションなど、非常に多くの作物に感染する。菌の発育最低温度は2℃・最高温度は30℃とされ、各種作物の管理温度帯と重なる平均気温20℃前後で高湿度になると発病しやすい。

今後の気象条件は、10月25日発表の3か月予報では気温・降水量ともほぼ平年並とされているが、曇雨天が続くなどの発生好適条件や、暖房機の稼働減少による過湿に注意する。



写真1 トマト
灰色かび病

<主な発生部位と症状および伝染形態>

- 枯れた下葉や葉先、摘葉・摘芽後の枯れた傷口、開花後の花弁・雌ずい等から発生する。その後、健全な部位に広がり、感染した場所を中心とする茶色の輪紋状病斑となることがある。葉や枝に落下した花弁から発生し、接触する茎葉に伝染することも多い。
- 病患部には、灰色のカビが密生し、軟らかく腐る。トマト果実の表面には、「ゴーストスポット」と呼ばれる直径1～2mmで白色円形の斑点を生じる。
- 貯蔵中や、出荷先で発病することもある。
- 茎や葉柄に発生した場合は、病患部より先は萎れて枯死する。
- 本病の伝染源は、被害残さや有機物に腐生的に生存する菌糸である。菌核も生ずる。



写真2 レタス灰色かび病

<防除法>

1 耕種的・物理的防除

- (1) 群落内の通風を良くし過湿を避ける。施設では、暖房機の積極的な稼働や、全面ポリマルチ・換気等によって湿度を下げる。降雨等で地下水位が例年より高いほ場では特に注意する。
- (2) 施設内での常温の送風は、発生前の予防には有効である。しかし、発生後は分生子（カビ）の飛散を助長し、感染をまん延させてしまうので注意する。
- (3) 傷口が早く乾くよう、管理作業は晴天が続く時に行う。摘葉や摘芽は基部で切断する。
- (4) 発病していなくても、しぼんだ花弁や枯死した部位は発生源となるため、摘除する。
- (5) 病患部は、伝染源となるため早急に摘除し、分生子が飛散ないように注意して持ち出し、土中深く埋却する。
- (6) 訪花昆虫を使用しない栽培では、UVカットフィルムを展張すると、分生子の発芽が抑制されるため発生が少なくなる。

2 化学的防除

- (1) 登録された農薬を用い、古葉や発病部位をできる限り除去し、葉裏や下位葉にも十分かかるようていねいに散布する。
- (2) 散布薬液が速やかに乾く時間までに作業を完了しないと、過湿のためにかえって発病を助長するので注意する。

Ⅲ その他の情報

本年の水稲再生株におけるイネ縞葉枯病の発生状況

病害虫防除課が10月に実施した水稲再生株調査において、県全体のイネ縞葉枯病平均発病株率は0.5%で平年並の発生であった(表・図)。調査対象70地点のうち発生は17地点で昨年の22地点から減少したが、発病株率の最高値は9.0%で昨年の6.2%より高かった(表)。

東葛飾地域では平均発病株率は4.5%と昨年の2.8%から増加し、他地域と比較して高い状況が続いている(表)。他の地域は昨年より減少し、印旛、香取、海匝、安房及び君津地域では発生がなかった(表)。

本県の令和3年産水稲では、問題となる被害は確認できず、本調査でも平成28年以降県全体の発病株率は低下傾向にある(図)。しかし、東葛飾地域においては、縞葉枯病の要防除水準である水稲再生株での発病株率5%を上回る調査地点が見られることから、3月発表予定の病害虫防除課が実施するヒメトビウンカ越冬虫の縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査や越冬虫密度調査の結果にも留意し、感染の拡大を引き続き警戒していく必要がある。

なお、水稲再生株はヒメトビウンカの生息場所となり、本病に罹病した水稲再生株はヒメトビウンカのウイルス保毒虫率を高める要因となる。このため、本病の感染拡大の防止のため、耕うんして稲株を土中に埋没させるなどの水稲再生株の早期の処分や、ヒメトビウンカの越冬場所を減らすための、ほ場周辺の雑草(特にイネ科雑草)の除去を行う。

表 水稲再生株におけるイネ縞葉枯病の地域別発生状況

地域	発病株率(%)			
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
千葉	0.4	0.3	0.3	0.3
東葛飾	5.2	5.1	2.8	4.5
印旛	0.4	0.3	0	0
香取	0.7	0	0.0	0
海匝	0	0	0	0
山武	0.4	0	0.1	0.0
長生	0.7	0	0.5	0.3
夷隅	0.2	0.2	0.3	0.1
安房	0	0	0	0
君津	0	0.1	0	0
全県平均値	0.8	0.6	0.4	0.5
全県最高値	8.5	10.2	6.2	9.0

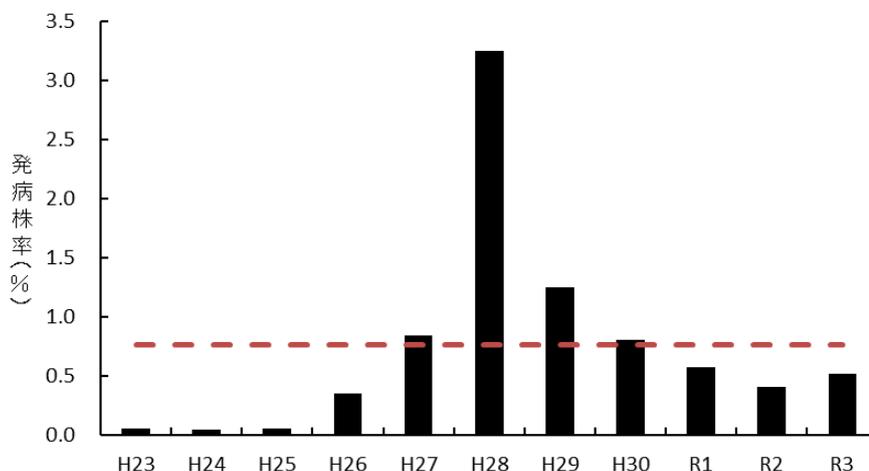


図 水稲再生株におけるイネ縞葉枯病の年次別発病株率

注) 破線は平年値0.76% (H23~R2年の平均値)

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：10月中旬、野菜：10月下旬～11月上旬、果樹・花き：10月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	萎縮病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	縞葉枯病	再生株発病株率(%)	0.52	0.76	0.40	
	黄萎病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黄化萎縮病	再生株発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
夏秋トマト (山武)	灰色かび病	発病株率(%)	12.00	8.44	2.00	
	"	発病果率(%)	0.11	0.05	0.10	
	"	果実発病度	0.69	0.49	1.25	
	葉かび病	発病株率(%)	16.00	9.70	26.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	15.40	4.72	3.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	17.60	18.42	4.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	30.40	1.12	1.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	13.60	1.56	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	4.58	17.00	
冬春キュウリ (山武)	うどんこ病	発病葉率(%)	12.60	14.78	10.40	
	褐斑病	発病葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	べと病	発病葉率(%)	0.00	1.52	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	0.00	0.00	
	ワタヘリクロノメイガ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	7.20	5.43	4.80	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	25.60	1.27	0.80	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
冬キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病度	0.00	0.16	0.20	
	ヨトウガ	卵幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.80	3.57	0.80	
	コナガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.02	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	
秋冬ネギ (長生、山武)	黒斑病	発病度	2.70	5.17	1.20	
	さび病	発病度	0.10	0.15	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	26.60	23.23	35.30	
	"	成幼虫寄生株率(%)	25.20	46.82	30.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	1.20	0.48	0.00	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	1.60	0.08	0.40	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	5.60	0.21	0.80	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.40	0.04	0.00	
	ネギハモグリバエ	被害度	11.10	3.56	7.80	
	冬レタス (安房、君津)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00
菌核病		発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
腐敗病		発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
ネキリムシ類		被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
アブラムシ類		成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.50	0.00	
ハスモンヨトウ		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病	発病株率 (%)	2.00	4.94	4.22	
	炭そ病	発病株率 (%)	0.00	0.13	0.00	
	灰色かび病	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率 (%)	2.44	6.60	4.27	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	2.15	0.44	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	8.58	14.52	8.04	
ナシ (県内全域)	黒星病 (秋型病斑)	発病葉率 (%)	2.42	2.18	1.63	
	うどんこ病	発病度	1.30	4.02	0.23	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.08	0.13	0.12	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	13.24	3.21	15.20	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.10	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率 (%)	0.80	6.78	0.60	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率 (%)	0.00	0.64	1.20	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.32	1.60	
	カメムシ類	被害果率 (%)	0.00	0.14	0.00	
	カメムシ類	叩き落とし虫数	0.00	0.40	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率 (%)	0.75	3.47	8.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.80	0.75	
カーネーション (安房)	立枯病	発病株率 (%)	0.00	1.24	0.00	
	萎凋病	発病株率 (%)	0.00	0.88	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	4.80	20.86	7.20	
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	3.60	12.97	1.80	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.56	0.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.08	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	0.80	3.60	1.60	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	13.02	0.00	
ストック (安房)	菌核病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	菌核病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	萎凋病 (施設)	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	萎凋病 (露地)	発病株率 (%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ (施設)	被害株率 (%)	3.00	2.35	0.00	
	コナガ (施設)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.56	0.00	
	コナガ (露地)	被害株率 (%)	4.00	6.55	5.60	
	コナガ (露地)	幼虫寄生株率 (%)	0.00	1.39	0.00	
	アブラムシ類 (露地)	成幼虫寄生株率 (%)	0.00	3.21	0.00	

トラップ月間誘殺数（10月）*種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	19.0	3.6	0.0	頭/月
	クサギカメムシ	"	4.0	0.5	0.0	
	ツヤアオカメムシ	"	36.0	5.1	0.0	
	カメムシ類	"	59.0	9.2	0.0	
	アオクサカメムシ	"	0.0	0.0	0.0	
	ミナミアオカメムシ	"	0.0	0.0	0.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	0.1	0.3	0.4	頭/日
	ヒメコガネ	"	0.0	0.0	0.0	
	コナガ	海匝	0.6	0.8	0.4	
	ハスモンヨトウ	県内全域	23.7	33.2	26.2	
	シロイチモジヨトウ	"	3.2	1.0	0.3	
	オオタバコガ	"	3.3	3.6	3.4	
	タバコガ	"	0.4	0.7	0.8	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	1.2	0.5	1.2	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	1.2	0.5	1.2	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	2.4	0.8	1.1	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	5.2	3.2	3.2	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	7.6	4.0	4.3	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.9	1.5	
ツヤアオカメムシ		"	2.0	0.6	0.4	
クサギカメムシ		"	0.8	0.3	0.2	
カメムシ類		"	4.7	2.3	1.3	
マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)		"	0.0	0.2	0.2	

○気象予報

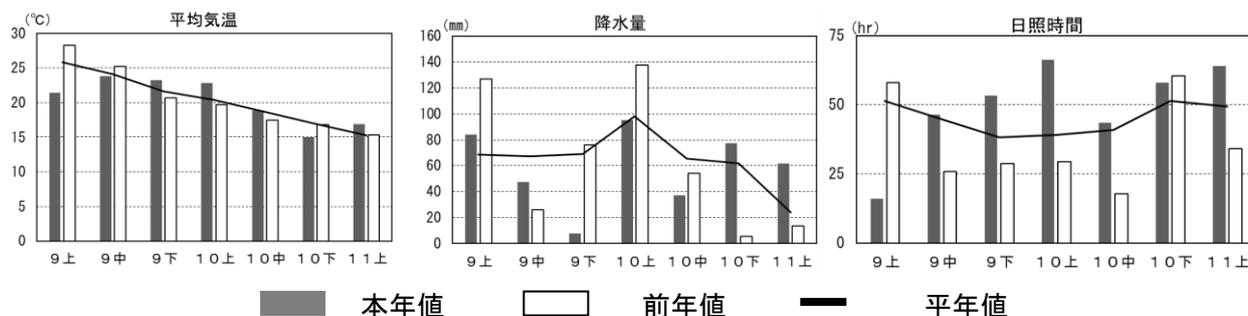
11月11日気象庁発表
 関東甲信地方における向こう1か月の確率(%)

向こう1か月の各気象要素の平年値
 (11月17日~12月14日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	10.9	12.0	11.3
降水量(mm)	74.3	114.1	115.1
日照時間(hr)	136.5	126.7	133.0

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前使用日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は12月15日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>



問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp